

YAESU

The radio

PCC-5000

オペレーションマニュアル

PCC (Personal Computer Control) -5000 は, FTDX5000 シリーズを Personal Computer 上でコントロールするソフトウェアです.

目次

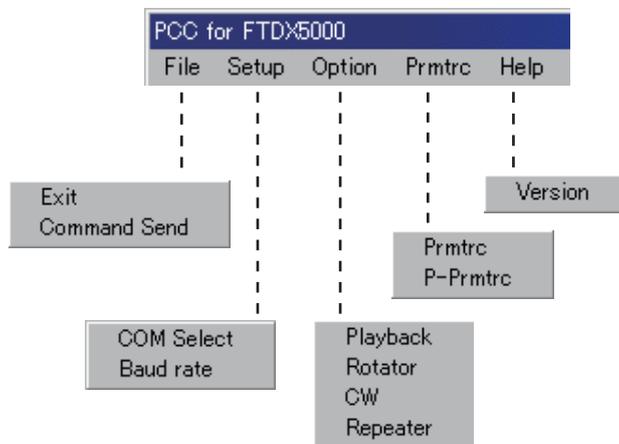
画面の説明	3	Antenna Tuner の設定	32
最初にお読みください	4	Repeater の運用	32
使用上のご注意	4	Keyer を使った運用	33
PCC-5000 を使用するために必要な環境	4	Contest Memory Keyer	34
接続図	4	Rotator のコントロール	35
PCC-5000 ソフトウェアのインストール	4	QMB メモリー	35
PCC-5000 ソフトウェアのアンインストール	4	各種ボタンとスイッチの操作	36
操作方法	5	[METER] ツマミ	36
PCC-5000 コントローラ画面	5	[MIC] ツマミ	36
“COM” の設定	5	[RF PWR] ツマミ	36
“Band rate” の設定	5	[DIM] ボタン	37
PCC-5000 コントローラの回線接続	5	[MOX] ボタン	37
電源の ON/OFF	6	[SPOT] ボタン	37
音量の調整	6	[A] ボタン	37
スケルチの調整	7	[B] ボタン	37
VFO-A の周波数セット	8	[SPLIT] ボタン	38
VFO-B の周波数セット	9	[TXW] ボタン	38
運用モード選択	10	VFO-A [RX] ボタン	38
クラリファイアの設定	10	VFO-A [TX] ボタン	38
プレイバック機能の設定	11	VFO-B [RX] ボタン	38
ボイスメモリーの設定	12	VFO-B [TX] ボタン	38
アンテナの切り換え	13	[FAST] ボタン	39
IPO, AMP の設定	13	[A▶B] ボタン	39
ATT の設定	13	[A▶◀B] ボタン	39
RF GAIN の設定	14	[V/M] ボタン	39
VRF の設定	15	[M▶A] ボタン	39
ルーフィングフィルターの設定	16	[A▶M] ボタン	39
CONTOUR Filter の設定	17	マルチファンクションダイヤル	
IF SHIFT の設定	19	(VFO-A の補助機能として使う)	40
WIDTH の設定	20	[CLAR/GRP] ボタン	40
NOTCH の設定	21	[BAND/MCH] ボタン	40
AUTO NOTCH (DNF) の設定	22	マルチファンクションダイヤル	
DNR の設定	23	(VFO-B の補助機能として使う)	41
NAR の設定	24	[A/B] ボタン	41
Noise Blanker の設定	25	[RX CLAR/FAST] ボタン	41
AGC の設定	26	[TX CLAR/LOCK] ボタン	41
LOCK の設定	26	メニューモードの設定	42
VOX の設定	27	バージョンの確認	43
Speech Processor の設定	28	CAT モードによる設定	44
Monitor の設定	28	Keyboard shortcut editor	45
3 ステージパラメトリックイコライザー機能の調整	29		

この「PCC-5000 オペレーションマニュアル」は操作方法のみ記載されておりますので、機能等の詳細は「FTDX5000 シリーズのオペレーションマニュアル」を参照してください。

画面の説明

ソフトウェアをインストールをして、“PCC-5000. exe”をダブルクリックすると、下記の PCC-5000 コントロール画面が開きます。

なお、この「PCC-5000 オペレーションマニュアル」は操作方法のみ記載されておりますので、機能等の詳細は「FTDX5000 シリーズのオペレーションマニュアル」を参照してください。



最初にお読みください

使用上のご注意

このソフトウェアおよびマニュアルの著作権は、八重洲無線株式会社にあります。このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製または譲渡することは禁じられています。

八重洲無線株式会社は、このソフトウェアおよびマニュアルの内容に関し、特許権、特許を受ける権利、著作権、商標権、実用新案権、意匠権またはその他の権利を有する場合があります。八重洲無線株式会社は、これらの権利をお客様に譲渡または許諾するものではありません。

このソフトウェアおよびハードウェアの仕様、機能、内容、およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。

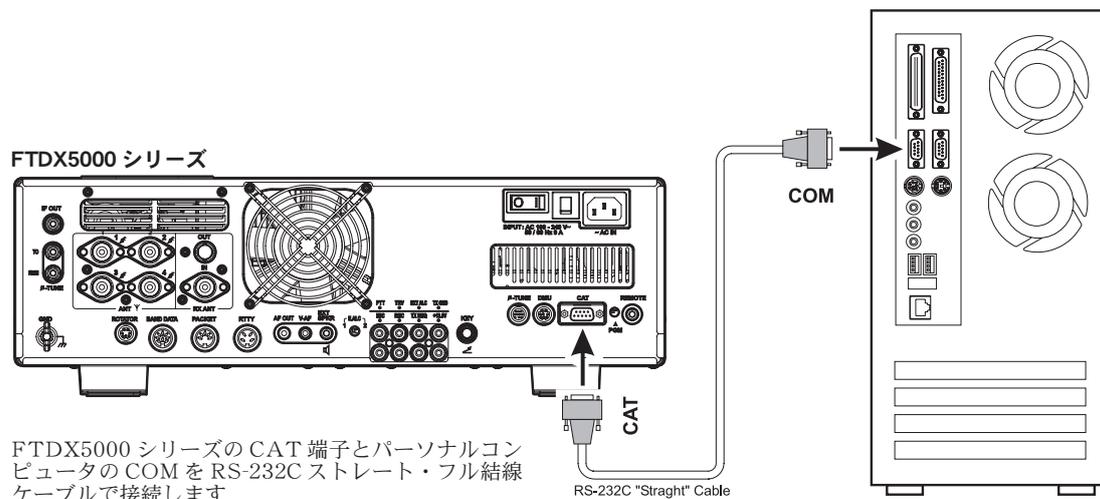
八重洲無線株式会社は、八重洲無線株式会社の登録商標です。また、記載されている会社名は、各社の商標または登録商標です。

警告：このプログラムは、著作権法および国際条約によって保護されています。このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製または譲渡することは禁じられています。

PCC-5000 を使用するために必要な環境

- RS-232C port のあるパーソナルコンピュータ
- Microsoft Windows 2000 以上のオペレーティング・システム
- ソフトウェアインストール用に 30MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- 256MB 以上の RAM
- 1024 x 768 の画面解像度 (XGA)、256 色以上をサポートするビデオカードとディスプレイを推奨

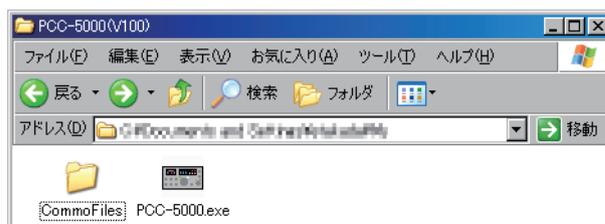
接続図



PCC-5000 ソフトウェアのインストール

PCC-5000 フォルダをハードディスクの C ドライブにコピーしてください。

PCC-5000 フォルダの中には CommoFiles フォルダと PCC-5000.exe があります。



PCC-5000 ソフトウェアのアンインストール

PCC-5000 フォルダごと、ごみ箱に移動してください。

操作方法

PCC-5000 コントローラ画面

PCC-5000 コントローラ画面の表示

“PCC-5000.exe”アイコンの上にマウスカーソルを移動しマウスの左ボタンをダブルクリックしてください。ロゴ画面が3秒間表示され、その後、PCC-5000 コントローラ画面が開きます。



PCC-5000.exe

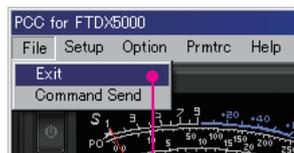
PCC-5000 アイコン

PCC-5000 コントローラ画面の終了

PCC-5000 コントローラ画面を閉じるには、下記の3種類の方法で行うことができます。

- PCC-5000 コントローラ画面の上の“終了ボタン”にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
- メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Exit」をマウスの左ボタンでクリックします。
- パソコンの [ESC] キーを押します。

終了ボタン



“Exit” をクリックする

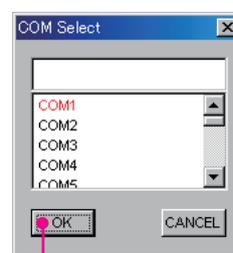


“COM”の設定

1. メニューバーの「Setup」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「COM Select」をマウスの左ボタンでクリックすると、「COM Select」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. RS-232C ケーブルを接続した COM 端子をマウスかキーボードの [↑], [↓] で選択し、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、COM が設定されポップアップウィンドウが閉じられます。
[CANCEL] ボタンをクリックすると COM は変更されずに終了してポップアップ画面は消えます。
3. PCC-5000 コントローラ画面を一度閉じ、PCC-5000 コントローラ画面を再起動してください。



“COM Select” をクリックする



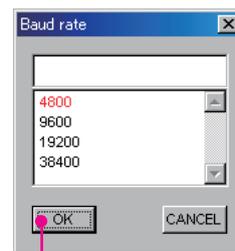
[OK] をクリックする

“Baud rate”の設定

1. メニューバーの「Setup」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Baud rate」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Baud rate」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. Baud rate を選択し [OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、Baud rate が設定されポップアップウィンドウが閉じられます。デフォルトは 4800bps に設定してありますが、それ以外にマウスかキーボードの [↑], [↓] で 9600bps/19200bps/38400bps に設定することができます。通常は 4800bps に設定してください。
[CANCEL] ボタンをクリックすると COM は変更されずに終了してポップアップ画面は消えます。



“COM Select” をクリックする



[OK] をクリックする

3. PCC-5000 コントローラ画面を一度閉じ、PCC-5000 コントローラ画面を再起動してください。

PCC-5000 コントローラの回線接続

1. [COM] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると黄色いインジケータが点灯し、PCC-5000 コントローラで FTDx5000 を操作することができます。
2. もう一度 [COM] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると黄色いインジケータは消灯し、PCC-5000 コントローラと FTDx5000 の回線は切れ、操作することができなくなります。



[COM] ボタン



[COM] ボタンの黄色いインジケータが消灯した状態でも、PCC-5000 コントローラの電源ボタン ([ON/OFF] ボタン) の操作だけ行うことができます。

操作方法

電源の ON/OFF

[ON/OFF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、FTDX5000 の電源を ON にすることができます。

もう一度 [ON/OFF] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、FTDX5000 の電源を OFF にすることができます。



【ON/OFF】スイッチ

【注意】

FTDX5000 のリヤパネルにある【主電源】スイッチは、PCC-5000 コントローラで操作することはできません。

FTDX5000 の【主電源】スイッチが OFF になっていると、PCC-5000 コントローラで操作することはできません。必ず ON の状態にしておいてください。

音量の調整

VFO-A

VFO-A の受信音量を調節するツマミです。

VFO-A [AF GAIN] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の AF GAIN 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

- VFO-A [AF GAIN] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると音量が下がっていきます。また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにすると音量が上がっていきます。
- VFO-A [AF GAIN] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて利得を設定します。ホイールを上方向にまわすと VFO-A [AF GAIN] ツマミの右回りになり音量が上がっていきます。また、下方向にまわすと VFO-A [AF GAIN] ツマミの左回りになり音量が下がっていきます。



VFO-B [AF GAIN] ツマミ VFO-A [AF GAIN] ツマミ

VFO-B

VFO-B の受信音量を調節するツマミです。

VFO-B [AF GAIN] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の AF GAIN 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

- Sub[AF GAIN] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると音量が下がっていきます。また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにすると音量が上がっていきます。
- Sub[AF GAIN] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて利得を設定します。ホイールを上方向にまわすと Sub[AF GAIN] ツマミの右回りになり音量が上がっていきます。また、下方向にまわすと Sub[AF GAIN] ツマミの左回りになり音量が下がっていきます。

操作方法

スケルチの調整

VFO-A

VFO-A のスケルチを調節するつまみです。

VFO-A [SQL] つまみをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の SQL 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

- **VFO-A [SQL]** つまみの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにするとスケルチのレベルが下がっていきます。また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにするとスケルチのレベルが上がっていきます。
- **VFO-A [SQL]** つまみの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてレベルを設定します。ホイールを上方向にまわすと **VFO-A [SQL]** つまみの右回りになりスケルチのレベルが上がっていきます。また、下方向にまわすと **VFO-A [SQL]** つまみの左回りになりスケルチのレベルが下がっていきます。



VFO-B

VFO-B のスケルチを調節するつまみです。

VFO-B [SQL] つまみをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の SQL 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

- **VFO-B [SQL]** つまみの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにするとスケルチのレベルが下がっていきます。また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにするとスケルチのレベルが上がっていきます。
- **VFO-B [SQL]** つまみの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて利得を設定します。ホイールを上方向にまわすと **VFO-B [SQL]** つまみの右回りになりスケルチのレベルが上がっていきます。また、下方向にまわすと **VFO-B [SQL]** つまみの左回りになりスケルチのレベルが下がっていきます。

操作方法

VFO-A の周波数セット

MAIN ダイアルツマミによる周波数設定

- **[MAIN ダイアル]** ツマミの上に（白枠内）マウスカーソルを移動し、白枠内でマウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと周波数が低くなり、また右回りにまわすと周波数が高くなります。
- **[MAIN ダイアル]** ツマミの上に（白枠内）マウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて周波数を設定します。ホイールを上方向にまわすと周波数が高くなり、また下方向にまわすと周波数が低くなります。



[MAIN ダイアル] ツマミ

周波数ダイレクト入力による周波数設定

VFO-A において、変更したい周波数の桁を直接設定することで周波数を変更することができます。

1. 変更したい周波数の桁にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします（数字が青色から橙色にかわります）。
2. マウスのホイールを回転し周波数を設定します。ホイールを上方向にまわすと数字が大きくなり、また下方向にまわすと数字が小さくなります。
3. マウスの左ボタンをクリックすると、数字が青色に戻り入力が終了になります。



周波数直接入力

100kHz ステップで周波数設定

[UP] キーまたは [DOWN] キーの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると 100kHz ステップで周波数を設定することができます。

運用バンドの設定

[BAND] キー の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると運用バンドを切り換えることができます。

キー入力による周波数設定

1. [BAND] キーの [ENT] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数ダイレクト入力モードになります。
2. VFO SET のポップアップ画面が表示され、パソコンのキーから直接周波数を入力することができます。入力範囲は 30kHz ~ 60MHz で、
30kHz を入力する場合は 30000
60MHz を入力する場合は 60000000
と入力します。
3. ポップアップ画面の [OK] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数変更され入力モードは終了してポップアップ画面は消えます。
[CANCEL] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると周波数は変更されずに入力モードは終了してポップアップ画面は消えます。



[DOWN] キー

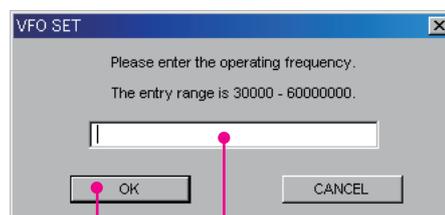
[UP] キー



[BAND] キー



[ENT] キー



[OK] ボタン

周波数入力部分

操作方法

VFO-B の周波数セット

VFO-B ツマミによる周波数設定

- [A/B] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、[A/B] ボタンが橙色に点灯し、[CLAR/VFO-B] ツマミが VFO-B の補助機能として動作します。[CLAR/VFO-B] ツマミの上に（白枠内）マウスカーソルを移動し、白枠内でマウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと周波数が低くなり、また右回りにまわすと周波数が高くなります。
- [A/B] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、[A/B] ボタンが橙色に点灯し、VFO-B の補助機能として動作します。[CLAR/VFO-B] ツマミの上に（白枠内）マウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて周波数を設定します。ホイールを上方向にまわすと周波数が高くなり、また下方向にまわすと周波数が低くなります。

周波数ダイレクト入力による周波数設定

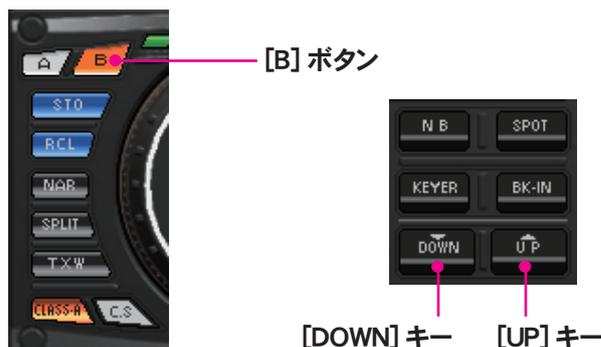
VFO-B において、変更したい周波数の桁を直接設定することで周波数を変更することができます。

1. VFO-B の周波数表示に、変更したい周波数の桁へマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします（数字が空色から橙色にかわります）。
2. マウスのホイールを回転し周波数を設定します。ホイールを上方向にまわすと数字が大きくなり、また下方向にまわすと数字小さくなります。
3. マウスの左ボタンをクリックすると、数字が空色に戻り入力終了になります。



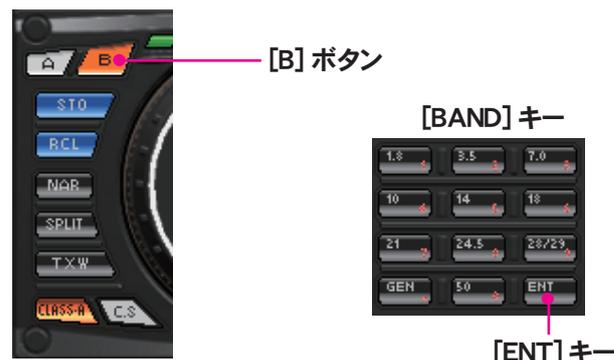
100kHz ステップで周波数設定

1. [B] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします（[B] ボタンが橙色に点灯）。
2. [UP] キーまたは [DOWN] キーの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると 100kHz ステップで周波数を設定することができます。



運用バンドの設定

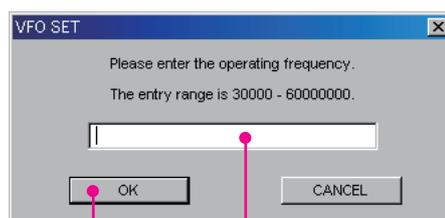
1. [B] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします（[B] ボタンが橙色に点灯）。
2. [BAND] キーをマウスの左ボタンでクリックして運用したいバンドを選択します。



キー入力による周波数設定

1. [B] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします（[B] ボタンが橙色に点灯）。[BAND] キーの [ENT] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数ダイレクト入力モードになります。
2. VFO SET のポップアップ画面が表示され、パソコンのキーから直接周波数を入力することができます。入力範囲は 30kHz ~ 60MHz で、30kHz を入力する場合は 30000、60MHz を入力する場合は 60000000 と入力します。
3. ポップアップ画面の [OK] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると周波数変更され入力モードは終了してポップアップ画面は消えます。

[CANCEL] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると周波数は変更されずに入力モードは終了してポップアップ画面は消えます。



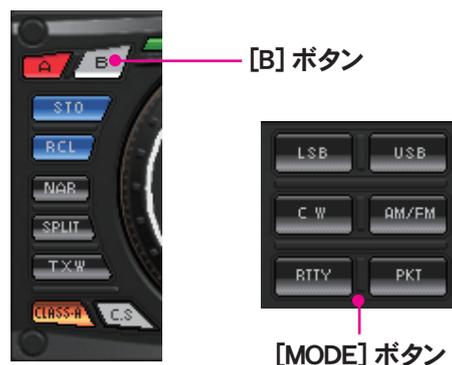
操作方法

運用モード選択

- VFO-A の場合は、設定したい **[MODE]** ボタンの上へマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンでクリックします。
- VFO-B の場合は、**[MODE]** ボタンの **[B]** の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして **([B])** が点灯し設定したい **[MODE]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

アドバイス

- **[CW]** をマウスの左ボタンでクリックするたびに“CW-U”と“CW-L”が交互に切り換わります。
- **[AM/FM]** をマウスの左ボタンでクリックするたびに“AM”（赤色点灯）と“FM”（橙色点灯）が交互に切り換わります。
- **[RTTY]** をマウスの左ボタンでクリックするたびに“RTTY-U”と“RTTY-L”が交互に切り換わります。
- **[PKT]** をマウスの左ボタンでクリックするたびに“PKT-U”、“PKT-L”さらに“PKT-FM”と切り換わります。



クラリファイアの設定

RX CLAR ボタン

[CLAR] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、ボタンが赤色に点灯しクラリファイアが ON になります。次に **[RX CLAR]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、受信用クラリファイアが ON になり、**[CLAR]** ツマミによって受信周波数を一時的に変更することができます。もう一度 **[RX CLAR]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、受信用クラリファイアは“OFF”になります。

TX CLAR ボタン

[CLAR] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、ボタンが赤色に点灯しクラリファイアが ON になります。**[TX CLAR]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、送信用クラリファイアが ON になり、**[CLAR]** ツマミによって送信周波数を一時的に変更することができます。もう一度 **[TX CLAR]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、送信用クラリファイアは“OFF”になります。

CLEAR ボタン

[CLEAR] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、**[CLAR]** ツマミにより設定したクラリファイアのシフト周波数が“ゼロ”にリセットされます。

CLAR ツマミ

- **[CLAR]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしながら左回りにまわすと周波数が低くなり、また右回りにまわすと周波数が高くなります。
- **[CLAR]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて周波数を設定します。ホイールを上方向にまわすと周波数が高くなり、また下方向にまわすと周波数が低くなります。



操作方法

プレイバック機能の設定

録音

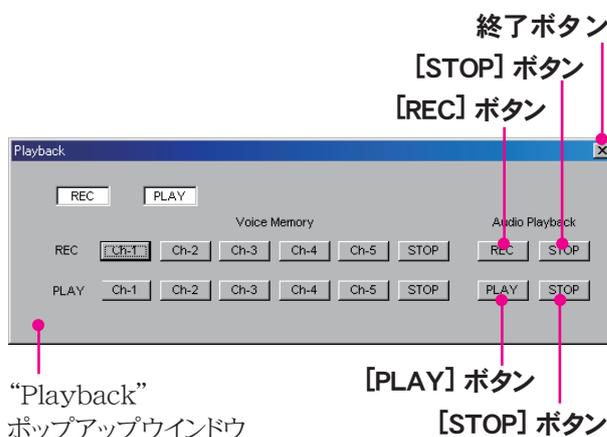
1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. Audio Playback の **[REC]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると録音を開始（REC インジケータが点灯）します。
3. REC 側の **[STOP]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると録音を終了します。



“Playback” パラメータ

再生

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. Audio Playback の **[PLAY]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると再生を開始（PLAY インジケータが点灯）します。
3. PLAY 側の **[STOP]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると再生を終了します。



終了ボタン

[STOP] ボタン

[REC] ボタン

“Playback”
ポップアップウィンドウ

[PLAY] ボタン

[STOP] ボタン

ポップアップ画面 (Playback) の終了

- “終了ボタン”にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
- パソコンの **[ESC]** キーを押します。

操作方法

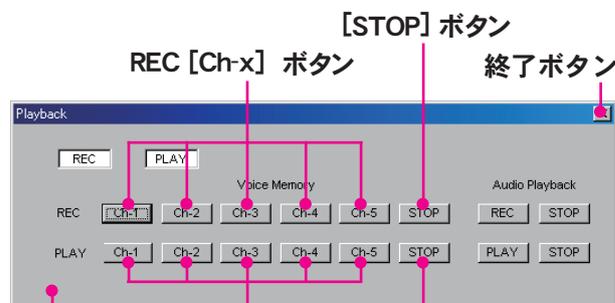
ボイスメモリーの設定

録音

1. FTDX5000 にマイクロホンを接続しておきます。
2. モードボタン ([LSB], [USB], [AM/FM]) より運用モードを設定します。
3. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
4. Voice Memory の [REC] ボタン (CH-1 ~ CH-5) をマウスの左ボタンでクリックすると録音を開始 (REC インジケータが点灯) しますので、FTDX5000 に接続されているマイクロホンに向かって音声を録音します (PTT スイッチを押す必要ありません) ます。最大 20 秒間録音することができます。
5. REC 側の [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると録音を終了します。



“Playback” パラメータ



“Playback”
ポップアップウィンドウ

確認 (再生)

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. Audio Playback の [PLAY] ボタン (CH-1 ~ CH-5) をマウスの左ボタンでクリックすると再生を開始 (PLAY インジケータが点灯) します。
3. 再生中終了したい場合は、PLAY の [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

送信

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Playback」をマウスの左ボタンでクリックし、「Playback」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. [BK IN] スイッチを “ON” にします。
2. Audio Playback の [PLAY] ボタン (CH-1 ~ CH-5) をマウスの左ボタンでクリックすると録音した内容が送信 (PLAY インジケータが点灯) されます。
3. 送信中終了したい場合は、PLAY の [STOP] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。

ポップアップ画面 (Playback) の終了

- “終了ボタン” にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
- パソコンの [ESC] キーを押します。

操作方法

アンテナの切り換え

VFO-A

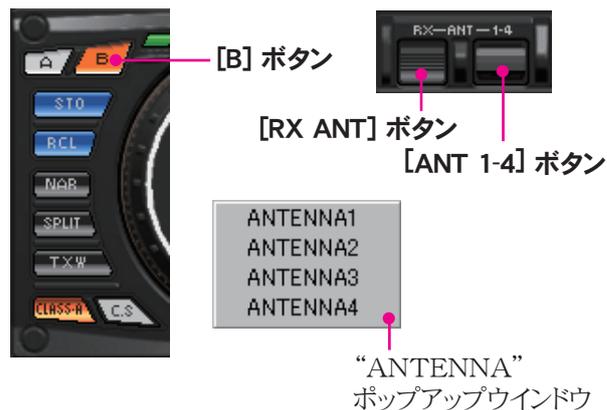
[ANT 1-4] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、“ANTENNA”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいアンテナを選択します。

RX ANTを使用する場合は、[RX ANT] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、RXアンテナに切り換わります。

VFO-B

[B] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします ([B] ボタンが橙色に点灯)。

[ANT 1-4] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、“ANTENNA”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいアンテナを選択します。



RX ANTを使用する場合は、[RX ANT] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、RXアンテナに切り換わります。

IPO (Intercept Point Optimization), AMP の設定

VFO-A

[IPO] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“IPO”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいフロントエンドシステムを選択します。

AMP1: 約 10dB の利得 RF アンプ

AMP2: 約 17dB の高利得 RF アンプ

IPO1: RF アンプ “OFF”

IPO2: RF アンプ “OFF”

VFO-B

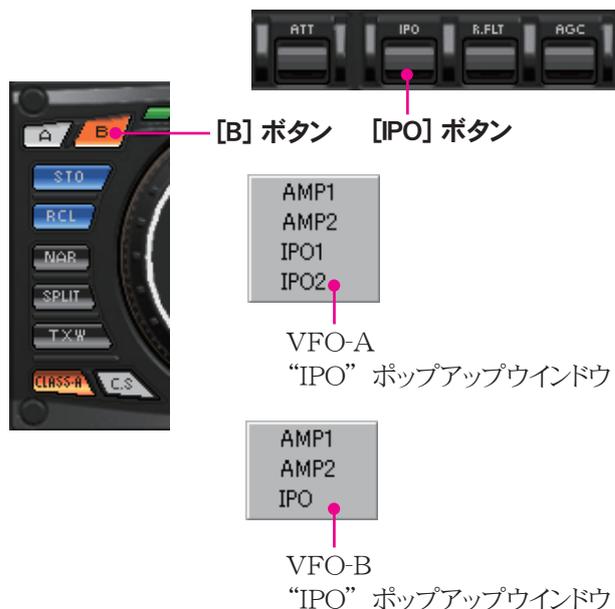
[B] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします ([B] ボタンが橙色に点灯)。

[IPO] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“IPO”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいフロントエンドシステムを選択します。

AMP1: 約 10dB の利得 RF アンプ

AMP2: 約 17dB の高利得 RF アンプ

IPO1: RF アンプ “OFF”



ATT (Attenuator) の設定

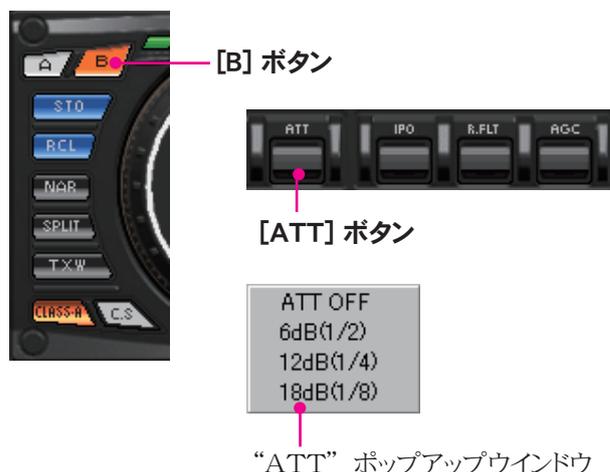
VFO-A

[ATT] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“ATT”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいアッテネータを選択します。

VFO-B

[B] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします ([B] ボタンが橙色に点灯)。

[ATT] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“ATT”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいアッテネータを選択します。



操作方法

RF GAIN の設定

VFO-A

VFO-A の受信部高周波増幅段および中間周波増幅段の利得を調節するツマミです。

VFO-A [RF GAIN] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の RF GAIN 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

- **VFO-A [RF GAIN]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると利得が下がっていきます。
また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにすると利得が上がっていきます。
- **VFO-A [RF GAIN]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて利得を設定します。ホイールを上方向にまわすと **VFO-A [RF GAIN]** ツマミの右回りになり利得が上がっていきます。

また、下方向にまわすと **VFO-A [RF GAIN]** ツマミの左回りになり利得が下がっていきます。



VFO-B
[RF GAIN] ツマミ

VFO-A
[RF GAIN] ツマミ

VFO-B

VFO-B の受信部高周波増幅段および中間周波増幅段の利得を調節するツマミです。

VFO-B [RF GAIN] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の RF GAIN 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

- **VFO-B [RF GAIN]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると利得が下がっていきます。
また、同様にマウスの右ボタンをクリックしたままにすると利得が上がっていきます。
- **VFO-B [RF GAIN]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて利得を設定します。ホイールを上方向にまわすと **VFO-B [RF GAIN]** ツマミの右回りになり利得が上がっていきます。

また、下方向にまわすと **VFO-B [RF GAIN]** ツマミの左回りになり利得が下がっていきます。

操作方法

VRF (Variable RF Front-end Filter) の設定

VFO-A

1. **[VRF/μ-T]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリック (**[VRF/μ-T]** ボタンの表示が赤色に点灯します) するたびにブロックダイアグラムディスプレイの「VRF」に“VRF” “μ-T” “THRU” が点灯して切り替わります。

“μ-T” は受信時にμ-TUNE 回路を通ります。

“μ-T” は受信時にμ-TUNE 回路を通ります。

“THRU” は受信時に VRF 回路またはμ-TUNE 回路を通らなくなります。

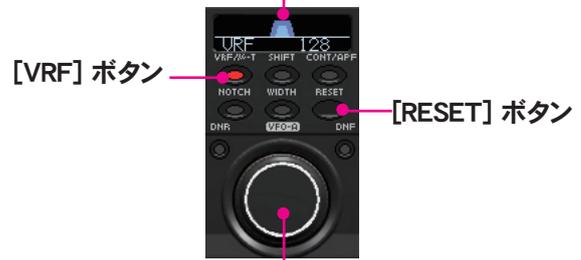
2. 手動で VRF またはμ-TUNE を調整したい場合は、**VFO-A [VRF/SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

□ **[VRF/SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに変化します。

□ **[VRF/SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて VRF またはμ-TUNE を設定します。ホイールを上方向にまわすと右回りに変化します。また下方向にまわすと左回りに変化します。

VRF またはμ-TUNE の周波数帯域幅を
パラメーターとグラフィックで表示します



VFO-A [SELECT] ツマミ

手動で VRF またはμ-TUNE を調整したい場合、**[RESET]** ボタンをクリックするとアマチュアバンド*の中央に戻ります。

※： アマチュアバンドとは国際バンドのプランを示します。

VFO-B

1. **[VRF/μ-T]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリック (**[VRF/μ-T]** ボタンの表示が橙色に点灯します) するたびにブロックダイアグラムディスプレイの「VRF」に“VRF” “μ-T” “THRU” が点灯して切り替わります。

“μ-T” は受信時にμ-TUNE 回路を通ります。

“μ-T” は受信時にμ-TUNE 回路を通ります。

“THRU” は受信時に VRF 回路またはμ-TUNE 回路を通らなくなります。

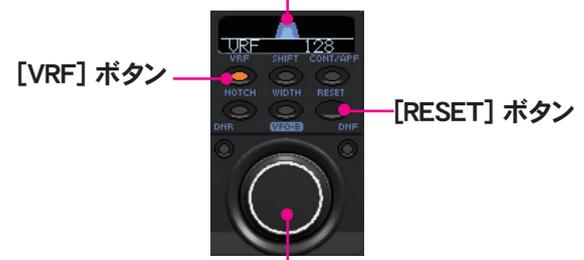
2. 手動で VRF またはμ-TUNE を調整したい場合は、**VFO-A [VRF/SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

□ **[VRF/SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに変化します。

□ **[VRF/SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて VRF またはμ-TUNE を設定します。ホイールを上方向にまわすと右回りに変化します。また下方向にまわすと左回りに変化します。

VRF またはμ-TUNE の周波数帯域幅を
パラメーターとグラフィックで表示します



VFO-A [SELECT] ツマミ

手動で VRF またはμ-TUNE を調整したい場合、**[RESET]** ボタンをクリックするとアマチュアバンド*の中央に戻ります。

※： アマチュアバンドとは国際バンドのプランを示します。

操作方法

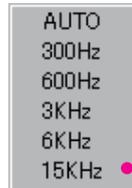
ルーフィングフィルターの設定

VFO-A

[R.FLT] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“R.FLT”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいルーフィングフィルターを選択します。



[R.FLT] ボタン



“R.FLT” ポップアップウィンドウ

VFO-B

[B] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします ([B] ボタンが橙色に点灯)。

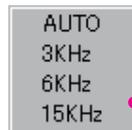
[R.FLT] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“R.FLT”のポップアップウィンドウが開きます。次に、設定したいルーフィングフィルターを選択します。



[B] ボタン



[R.FLT] ボタン



“R.FLT” ポップアップウィンドウ

操作方法

CONTOUR Filter の設定

VFO-A

1. **[CONT/APF]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして CONTOUR を選択します (**[CONT]** ボタンの表示が赤色に点灯します)。

CONTOUR 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。

2. **VFO-A [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の CONTOUR 文字が白色から黄色に変わります)。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに CONTOUR が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに CONTOUR が変化します。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて CONTOUR を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに CONTOUR が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに CONTOUR が変化します。

3. CONTOUR を解除したい場合は、**[CONT/APF]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

CONTOUR 回路の動作が“OFF”になります (**[CONT/APF]** ボタンの表示が消灯します)。

CONTOUR の周波数帯域幅をグラフィックで表示します



[CONT] ボタン

[RESET] ボタン

VFO-A **[SELECT]** ツマミ

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

APF (CW 運用時のみ)

1. **[CONT/APF]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。APF 回路が動作し PCC-5000 コントローラ画面の SUB ディスプレイに APF のアイコンが点灯 (本体は CONTOUR のアイコンが消灯) され中心周波数を表示します。
2. APF を解除したい場合は、**[CONT/APF]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、“OFF” を選択します。APF 回路の動作が“OFF”になり、マウスの左ボタンをクリックします

アドバイス

メニューモード“112 APF WIDTH”で、APF の帯域幅を設定することができます。

操作方法

CONTOUR Filter の設定 (つづき)

VFO-B

1. **[CONT/APF]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして CONTOUR を選択します (**[CONT]** ボタンの表示が橙色に点灯します)。CONTOUR 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。
2. **VFO-B [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の CONTOUR 文字が白色から黄色に変わります)。設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。
 - **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに CONTOUR が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに CONTOUR が変化します。
 - **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて CONTOUR を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに CONTOUR が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに CONTOUR が変化します。
3. CONTOUR を解除したい場合は、**[CONT/APF]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。CONTOUR 回路の動作が“OFF”になります (**[CONT/APF]** ボタンの表示が消灯します)。

CONTOUR の周波数帯域幅をグラフィックで表示します



[CONT] ボタン

[RESET] ボタン

VFO-B **[SELECT]** ツマミ

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

APF (CW 運用時のみ)

1. **[CONT/APF]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。APF 回路が動作し PCC-5000 コントローラ画面の SUB ディスプレイに APF のアイコンが点灯 (本体は CONTOUR のアイコンが消灯) され中心周波数を表示します。
2. APF を解除したい場合は、**[CONT/APF]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、“OFF” を選択します。APF 回路の動作が“OFF”になり、マウスの左ボタンをクリックします。

アドバイス

メニューモード“112 APF WIDTH”で、APF の帯域幅を設定することができます。

操作方法

IF SHIFT の設定

VFO-A

1. **[SHIFT]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして SHIFT を選択します (**[SHIFT]** ボタンの表示が赤色に点灯します)。

SHIFT 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。

2. **VFO-A [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の SHIFT 文字が白色から黄色に変わります)。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに SHIFT が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに SHIFT が変化します。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて SHIFT を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに SHIFT が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに SHIFT が変化します。

SHIFT の周波数帯域幅をグラフィックで表示します



VFO-A **[SELECT]** ツマミ

3. SHIFT を解除したい場合は、**[SHIFT]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

SHIFT 回路の動作が“OFF”になります (**[SHIFT]** ボタンの表示が消灯します)。

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

VFO-B

1. **[SHIFT]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして SHIFT を選択します (**[SHIFT]** ボタンの表示が橙色に点灯します)。

SHIFT 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。

2. **VFO-B [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の SHIFT 文字が白色から黄色に変わります)。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに SHIFT が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに SHIFT が変化します。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて SHIFT を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに SHIFT が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに SHIFT が変化します。

SHIFT の周波数帯域幅をグラフィックで表示します



VFO-B **[SELECT]** ツマミ

3. SHIFT を解除したい場合は、**[SHIFT]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

SHIFT 回路の動作が“OFF”になります (**[SHIFT]** ボタンの表示が消灯します)。

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

操作方法

WIDTH の設定

VFO-A

1. **[WIDTH]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして WIDTH を選択します (**[WIDTH]** ボタンの表示が赤色に点灯します)。WIDTH 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。
2. **VFO-A [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の WIDTH 文字が白色から黄色に変わります)。設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。
 - **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに WIDTH が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに WIDTH が変化します。
 - **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて WIDTH を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに WIDTH が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに WIDTH が変化します。



3. WIDTH を解除したい場合は、**[WIDTH]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。WIDTH 回路の動作が“OFF”になります (**[WIDTH]** ボタンの表示が消灯します)。

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

VFO-B

1. **[WIDTH]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして WIDTH を選択します (**[WIDTH]** ボタンの表示が橙色に点灯します)。WIDTH 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。
2. **VFO-B [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の WIDTH 文字が白色から黄色に変わります)。設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。
 - **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに WIDTH が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに WIDTH が変化します。
 - **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて WIDTH を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに WIDTH が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに WIDTH が変化します。



3. WIDTH を解除したい場合は、**[WIDTH]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。WIDTH 回路の動作が“OFF”になります (**[WIDTH]** ボタンの表示が消灯します)。

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

操作方法

NOTCH の設定

VFO-A

1. **[NOTCH]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして NOTCH を選択します (**[NOTCH]** ボタンの表示が赤色に点灯します)。

NOTCH 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。

2. **VFO-A [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の NOTCH 文字が白色から黄色に変わります)。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに NOTCH が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに NOTCH が変化します。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて NOTCH を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに NOTCH が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに NOTCH が変化します。

NOTCH の周波数帯域幅をグラフィックで表示します



3. NOTCH を解除したい場合は、**[NOTCH]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

NOTCH 回路の動作が“OFF”になります (**[NOTCH]** ボタンの表示が消灯します)。

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

VFO-B

1. **[NOTCH]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして NOTCH を選択します (**[NOTCH]** ボタンの表示が橙色に点灯します)。

NOTCH 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。

2. **VFO-B [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の NOTCH 文字が白色から黄色に変わります)。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに NOTCH が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに NOTCH が変化します。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて NOTCH を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに NOTCH が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに NOTCH が変化します。

NOTCH の周波数帯域幅をグラフィックで表示します



3. NOTCH を解除したい場合は、**[NOTCH]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

NOTCH 回路の動作が“OFF”になります (**[NOTCH]** ボタンの表示が消灯します)。

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

操作方法

AUTO NOTCH の設定

VFO-A

[DNF] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、受信信号中の複数の不要なビート音を自動的に減衰することができます。



[DNF] ボタン

VFO-B

[DNF] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、受信信号中の複数の不要なビート音を自動的に減衰することができます。



[DNF] ボタン

操作方法

DNR（デジタルノイズリダクション）の設定

VFO-A

1. **[DNR]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして DNR を選択します（**[DNR]** ボタンの表示が赤色に点灯します）。

DNR 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。

2. **VFO-A [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の DNR 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに DNR が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに DNR が変化します。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて DNR を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに DNR が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに DNR が変化します。

DNR の状態をパラメーターとグラフィックで表示します



3. DNR を解除したい場合は、**[DNR]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

DNR 回路の動作が“OFF”になります（**[DNR]** ボタンの表示が消灯します）。

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

VFO-B

1. **[DNR]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして DNR を選択します（**[DNR]** ボタンの表示が橙色に点灯します）。

DNR 回路が動作し SUB ディスプレイに動作状態を表示します。

2. **VFO-B [SELECT]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の DNR 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに DNR が変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに DNR が変化します。

□ **[SELECT]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて DNR を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの右回りに DNR が変化します。また下方向にまわすと **[SELECT]** ツマミの左回りに DNR が変化します。

DNR の状態をパラメーターとグラフィックで表示します



3. DNR を解除したい場合は、**[DNR]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

DNR 回路の動作が“OFF”になります（**[DNR]** ボタンの表示が消灯します）。

[RESET] ボタンをクリックすると初期値に戻ります。

操作方法

NAR (One-Touch Narrow IF Filter Selection) の設定

VFO-A

1. **[NAR]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、WIDTH の位置に関係なく、瞬時に通過帯域幅を狭くすることができます。帯域幅の詳細はFTDX5000シリーズのオペレーションマニュアルをご覧ください。
2. もう一度 **[NAR]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、NAR は解除されます。



[NAR] ボタン

VFO-B

1. **[MODE]** ボタンの **[B]** の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。 **[NAR]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、WIDTH の位置に関係なく、瞬時に通過帯域幅を狭くすることができます。帯域幅の詳細はFTDX5000シリーズのオペレーションマニュアルをご覧ください。
2. もう一度 **[NAR]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、NAR は解除されます。



[B] ボタン

[NAR] ボタン

操作方法

Noise Blanker の設定

VFO-A

1. **[NB]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“NB”のポップアップウィンドウが開き、下記のようにNBを設定をします。

NB OFF: NBの機能をOFFにします。

NB ON: NBの機能をONにします。
“パルス性雑音”に効果があります。

NB-W ON: NB-Wの機能をONにします。
“幅の広い雑音”に効果があります。

2. 手順1. を参考に**[NB]** ボタンをONにしておきます。
3. **[NB]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分のNB文字が白色から黄色に変わります）。

設定は2種類の方法があります（下記参照）。

□ **[NB]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに変化します。

□ **[NB]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてNBを設定します。ホイールを上方向にまわすと右回りに変化します。また下方向にまわすと左回りに変化します。

[NB] ボタン



NB OFF

NB ON

NB-W ON

“NB” ポップアップウィンドウ



[NB] ツマミ

VFO-B

1. **[MODE]** ボタンの**[B]**の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。**[NB]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“NB”のポップアップウィンドウが開き、下記のようにNBを設定をします。

NB OFF: NBの機能をOFFにします。

NB ON: NBの機能をONにします。
“パルス性雑音”に効果があります。

NB-W ON: NB-Wの機能をONにします。
“幅の広い雑音”に効果があります。

2. 手順1. を参考に**[NB]** ボタンをONにしておきます。
3. **[NB]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分のNB文字が白色から黄色に変わります）。

設定は2種類の方法があります（下記参照）。

□ **[B]** が点灯中に**[NB]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに変化します。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに変化します。

□ **[B]** が点灯中に**[NB]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてNBを設定します。ホイールを上方向にまわすと右回りに変化します。また下方向にまわすと左回りにNBのレベルが変化します。

[B] ボタン



[NB] ボタン



NB OFF

NB ON

NB-W ON

“NB” ポップアップウィンドウ



[NB] ツマミ

操作方法

AGC の設定

VFO-A

[AGC] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“AGC”のポップアップウィンドウが開き、AGCを設定することができます。

通常は AGC AUTO に設定しておきます。



[AGC] ボタン

AGC OFF
AGC AUTO
AGC FAST
AGC MID
AGC SLOW

“AGC” ポップアップウィンドウ

VFO-B

[MODE] ボタンの [B] の上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

[AGC] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると“AGC”のポップアップウィンドウが開き、AGCを設定することができます。

通常は AGC AUTO に設定しておきます。



[B] ボタン

LOCK の設定

VFO-A

[LOCK] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると [MAIN ダイアル] ツマミを“LOCK”することができます。



[LOCK] ボタン

VFO-B

[A/B] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

[TX CLAR/LOCK] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると [CLAR/VFO-B] ツマミを“LOCK”することができます。



[TX CLARLOCK] ボタン

[A/B] ボタン

操作方法

VOX の設定

1. **[VOX]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとボタンが赤く点灯します。
2. **[VOX]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の VOX 文字が白色から黄色に変わります）。音声入力によって自動的に送信状態になる位置に設定します。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

□ **[VOX]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに VOX の感度が下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに VOX の感度が上がります。

□ **[VOX]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて VOX を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[VOX]** ツマミの右回りに VOX の感度が上がります。また下方向にまわすと **[VOX]** ツマミの左回りに VOX の感度が下がります。

3. **[DELAY]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の DELAY 文字が白色から黄色に変わります）。言葉の切れ目ですぐに受信状態に戻ってしまう場合に設定します。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

□ **[DELAY]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに VOX の送信状態保持時間が短くなります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに VOX の送信状態保持時間が長くなります。

□ **[DELAY]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて DELAY を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[DELAY]** ツマミの右回りに VOX の送信状態保持時間が長くなります。また下方向にまわすと **[DELAY]** ツマミの左回りに VOX の送信状態保持時間が長くなります。



操作方法

Speech Processor の設定

1. **[PROC]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“PROC”のポップアップウィンドウが開き、MIC-EQ または PROC 機能を設定することができます。

OFF: 機能が OFF になります。

MIC-EQ: パラメトリックマイクイコライザー機能が ON になります。あらかじめ好みの送信音質に設定しておくことでワンタッチで切り換えることができます。

音質の設定は、「Prmtc 画面」の周波数特性グラフを確認しながら設定することができます (29 ページ参照)。

PROC: スピーチプロセッサ機能が“ON”になります。また同時にスピーチプロセッサ専用のパラメトリックマイクイコライザーが動作します。パラメトリックマイクイコライザーは、あらかじめ最適な音質に設定してありますが、好みの音質に設定することができます。

音質の設定は、「Prmtc 画面」の周波数特性グラフを確認しながら設定することができます (29 ページ参照)。

2. **[PROC]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の PROC 文字が白色から黄色に変わります)。
送信信号の平均電力を増加させることによって、トークパワーを上げます。
設定は 2 種類の方法があります (右記参照)。



[PROC] ボタン



“PROC”
ポップアップウィンドウ



[PROC] ツマミ

- **[PROC]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに PROC の感度が下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに PROC の感度が上がります。
- **[PROC]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて PROC を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[PROC]** ツマミの右回りに PROC の感度が上がります。また下方向にまわすと **[PROC]** ツマミの左回りに PROC の感度が下がります。

Monitor の設定

1. **[MONI]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとモニターが“ON”になります。

2. **[MONI]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックします (パネル部分の MONI 文字が白色から黄色に変わります)。

送信時に自分の送信音をモニターすることができます。

設定は 2 種類の方法があります (下記参照)。

□ **[MONI]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに MONI の音量が下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに MONI の音量が上がります。

□ **[MONI]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて PROC を設定します。ホイールを上方向にまわすと **[MONI]** ツマミの右回りに MONI の音量が上がります。また下方向にまわすと **[MONI]** ツマミの左回りに MONI の音量が下がります。



[MONI] ボタン



[MONI] ツマミ

操作方法

3 ステージパラメトリックイコライザー機能の調整

メニューバーの「Prmtrc」から「Prmtrc」または「P-Prmtrc」を選択すると、パラメトリックイコライザのゲインと周波数特性のグラフ画面が表示され、グラフ画面を見ながら送信周波数特性の設定ができます。

ポップアップウィンドウの「Prmtrc」を選択するとパラメトリックイコライザーにより好みに合わせて送信音質を低域・中域・高域のそれぞれに独立して変化させることができます。

また、「P-Prmtrc」を選択すると、スピーチプロセッサ専用のパラメトリックイコライザーで好みに合わせて送信音質を変化させることができます。

1. FTDX5000 にマイクロホンを接続します。
2. **[RF PWR]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックし、マウスのホイールを下方向に回転させて出力を最小にしてください。

アドバイス

- イコライザーの調整には、好みの音質に調整するために時間がかかりますので、RF ダミーロードをご使用することをおすすめします。
- 自分の音質をチェックするにはヘッドフォンを使用するとよくわかります。

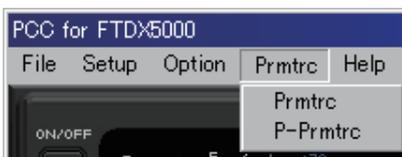
3. **[MONI]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとモニターが“ON”になります。
4. **[PROC]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックし“PROC”のポップアップウィンドウが開き、**MIC-EQ** または **PROC** のどちらかを選択します。
5. メニューバーの「Prmtrc」を選択するとポップアップウィンドウが開き、手順 4. で **MIC-EQ** を選択した場合は「Prmtrc」また **PROC** を選択した場合は「P-Prmtrc」を選択します。選択後「Prmtrc/P-Prmtrc 画面」が現れます。
6. 「Prmtrc/P-Prmtrc 画面」の PRMTRC EQ1 (低域), PRMTRC EQ2 (中域), PRMTRC EQ3 (高域) の **FREQ**, **LEVEL**, **BWTH** を設定します。

7. 設定を変えるたびにマイクロホンの PTT スイッチを押して送信しながら音質を確認します。

アドバイス

- 好みの音質になるまで、低域、中域、高域のそれぞれの音域で上記の調整を繰り返します。
- モニター音の調整は **[MONI]** ツマミで行います。
- 中心周波数の設定をすべて“OFF”にすると **MIC-EQ** の表示が点滅します。

8. **[APPLI]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックして設定を保存します。
9. **[EXIT]** ボタンまたは、パソコンの **[ESC]** キーまたは、ポップアップウィンドウの“Exit”を押すと現在の設定状態が FTDX5000 側の設定状態として適用され「Prmtrc 画面」が閉じられます。



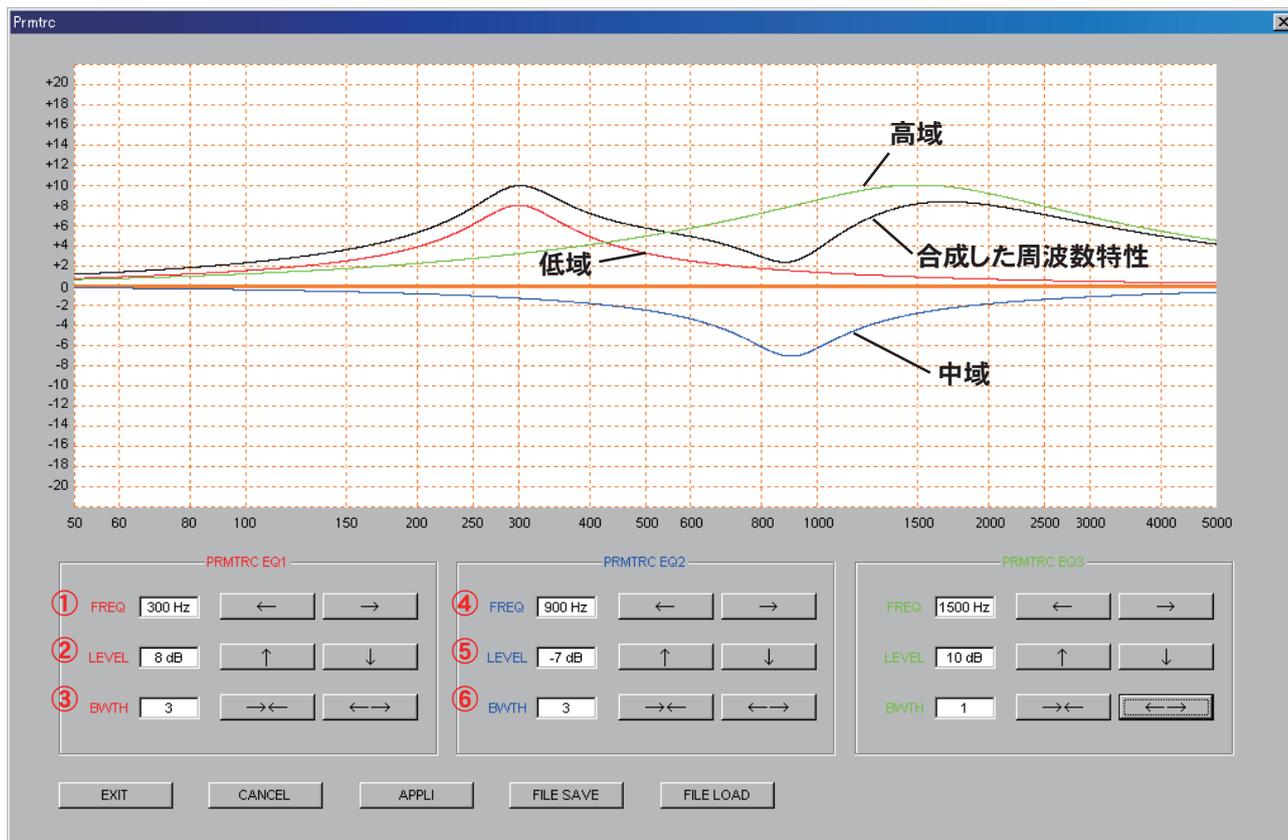
アドバイス

- **[CANCEL]** キーを押すと現在の設定状態を保存せず、一つ前の設定状態に戻ります。
- **[FILE SAVE]** キーを押すと現在の設定状態がユーザー指定のフォルダーに pef ファイルとして保存することができます。
- **[FILE LOAD]** キーを押すとユーザー選択された pef ファイルの設定状態がデフォルト設定として適用され、FTDX5000 の設定に反映することができます。
- COM オフ状態 (COM ボタンの橙色の LED が消灯) では FTDX5000 側とのシリアル通信は行わずに PCC-5000 のパラメトリックイコライザー機能操作が単体で動作します。

操作方法

3 ステージパラメトリックイコライザー機能の調整 (つづき)

Pmtrc/P-Pmtrc 画面



PRMTRC EQ1(低域)

- ① **FREQ**
FREQの[←]/[→]キーにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると低域の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→]キーの押し続けでも動作します。
選択範囲:OFF/100 ~ 700 (Hz) (100Hz ステップ)
- ② **LEVEL**
LEVELの[↑]/[↓]キーを押すと低域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓]キーの押し続けでも動作します。
選択範囲: -20 ~ 0 ~ +10 (dB)
- ③ **BWTH**
BWTHの[→←]/[←→]キーを押すと低域の周波数において、変化幅を設定できます。
[→←]/[←→]キーの押し続けでも動作します。
選択範囲: 1 ~ 10

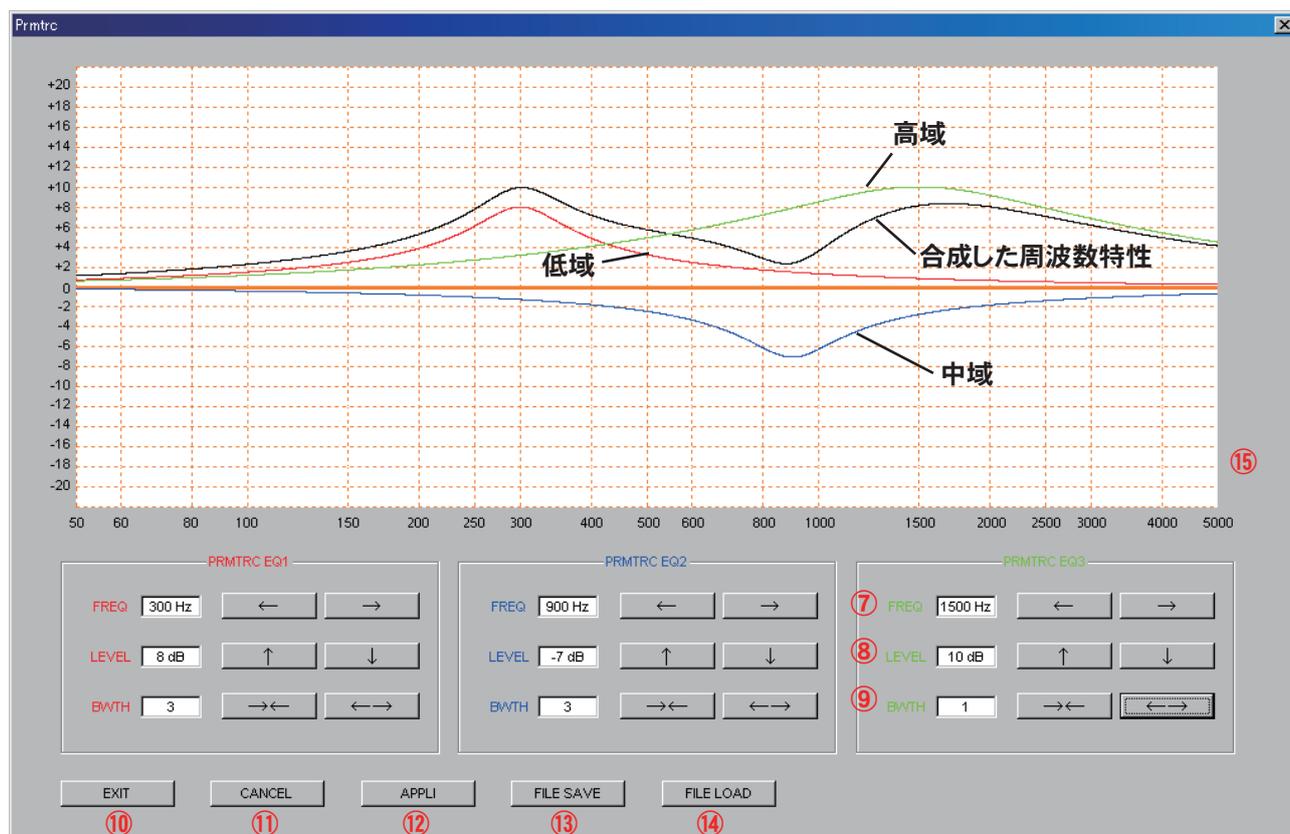
PRMTRC EQ2(中域)

- ④ **FREQ**
FREQの[←]/[→]キーにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると中域の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→]キーの押し続けでも動作します。
選択範囲:OFF/700 ~ 1500 (Hz) (100Hz ステップ)
- ⑤ **LEVEL**
LEVELの[↑]/[↓]キーを押すと中域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓]キーの押し続けでも動作します。
選択範囲: -20 ~ 0 ~ +10 (dB)
- ⑥ **BWTH**
BWTHの[→←]/[←→]キーを押すと中域の周波数において、変化幅を設定できます。
[→←]/[←→]キーの押し続けでも動作します。
選択範囲: 1 ~ 10

操作方法

3 ステージパラメトリックイコライザー機能の調整 (つづき)

Prmtrc/P-Prmtrc 画面



PRMTRC EQ3(高域)

⑦ FREQ

FREQ の [←]/[→] キーにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると高域の周波数において、中心周波数を設定できます。[←]/[→] キーの押し続けでも動作します。
選択範囲：OFF/1500～3200 (Hz)
(100Hz ステップ)

⑧ LEVEL

LEVEL の [↑]/[↓] キーを押すと高域の周波数において、変化量を設定できます。[↑]/[↓] キーの押し続けでも動作します。
選択範囲：-20～0～+10 (dB)

⑨ BWTH

BWTH の [→←]/[←→] キーを押すと高域の周波数において、変化幅を設定できます。
[→←]/[←→] キーの押し続けでも動作します。
選択範囲：1～10

キー関連

- ⑩ [EXIT] ボタンまたは、パソコンの [ESC] キーまたは、ポップアップウィンドウを閉じるを押すと現在の設定状態が FTDX5000 側の設定状態として適用され「Prmtrc 画面」が閉じます。
- ⑪ [CANCEL] キーを押すと現在の設定状態を保存せずに一つ前の設定状態に戻ります。

- ⑫ [APPLI] ボタンを押すと現在の設定状態を保存します。

- ⑬ [FILE SAVE] キーを押すと現在の設定状態がパソコンのユーザー指定のフォルダーに pef ファイルとして保存することができます。

- ⑭ [FILE LOAD] キーを押すとユーザー選択された pef ファイルの設定状態が適用され、FTDX5000 の設定に反映することができます。

アドバイス

COM オフ状態 (COM ボタンの橙色の LED が消灯) では FTDX5000 側とのシリアル通信は行わずに PCC-5000 のパラメトリックイコライザ機能操作が単体で動作します。

⑮ 3 ステージパラメトリックイコライザーのグラフ表示

低域・中域・高域に独立して中心周波数、マイクゲイン、Q 設定を入力することにより、3 ステージパラメトリックイコライザーのグラフを表示することができます。赤線は低域、青線は中域、緑線は高域、黒線は低域・中域・高域の音域を合成した周波数特性を表示します。

操作方法

Antenna Tuner の設定

[TUNE] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“TUNE”のポップアップウィンドウが開き、Antenna Tuner を設定することができます。

TUNER OFF: Antenna Tuner 機能が OFF になります。

TUNER ON: Antenna Tuner 機能が ON になります。

TUNING: チューニングがスタートします。チューニングが終了すると受信状態に戻ります。



Repeater の運用

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックするとポップアップウィンドウが表示され、次に「Repeater」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Repeater」のポップアップウィンドウが表示されます。

2. 例として 88.5Hz を設定する場合は、まずは CTCSS MODE を設定します。

[ENC] ボタン（エンコーダー）または [SQL] ボタン（トーンスケルチ）をマウスの左ボタンでクリックして選択します。

[OFF] ボタンに設定すると CTCSS MODE は OFF になります。

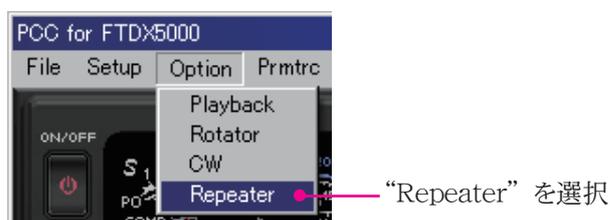
3. 次に、CTCSS TONE 周波数を選択します。

[Freq] ボタンをマウスの左ボタンでクリックするとポップアップウィンドウが表示され、CTCSS TONE 周波数が表示されます。

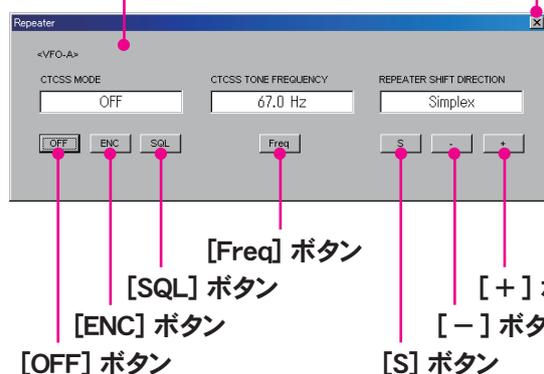
4. “88.5” をマウスの左ボタンでクリックし、[OK] ボタンをクリックするとポップアップウィンドウが閉じられ設定されます。

5. 次に Repeater Shift Direction を選択します。Simplex の場合は [S] ボタンに設定、マイナスシフトの場合は [-] ボタンに設定、プラスシフトの場合は [+] ボタンに設定します。

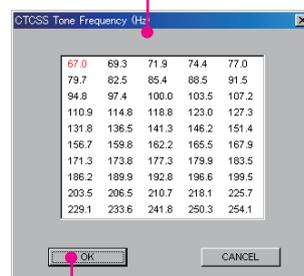
6. 以上で設定は終了です。[終了] ボタンまたはパソコンの [ESC] キーを押してポップアップウィンドウを閉じます。



“Repeater”
ポップアップウィンドウ



“CTCSS Tone Frequency”
ポップアップウィンドウ



操作方法

Keyer を使った運用

1. **[KEYER]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとキーヤー機能が“ON”になります。
2. **[SPEED]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックし、キーイング速度を調節します（パネル部分の SPEED 文字が白色から黄色に変わります）。設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。
 - **[SPEED]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りにキーイング速度が遅くなります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りにキーイング速度が速くなります。
 - **[SPEED]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすと **[SPEED]** ツマミの右回りにキーイング速度が速くなります。また下方向にまわすと **[SPEED]** ツマミの左回りにキーイング速度が遅くなります。
3. **[PITCH]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックし、聴きやすい周波数に調節します（パネル部分の PITCH 文字が白色から黄色に変わります）。設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。
 - **[PITCH]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りにピッチ周波数が低くなります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りにピッチ周波数が高くなります。
 - **[PITCH]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすと **[PITCH]** ツマミの右回りにピッチ周波数が高くなります。また下方向にまわすと **[PITCH]** ツマミの左回りにピッチ周波数が低くなります。
4. **[BK-IN]** ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとブレークイン操作になります。
5. **[DELAY]** ツマミをマウスの左ボタンでクリックし、キーイング操作が終わってから受信状態に戻るまでの時間を調節します（パネル部分の DELAY 文字が白色から黄色に変わります）。設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。
 - **[DELAY]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りにディレイタイムが長くなります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りにディレイタイムが短くなります。
 - **[DELAY]** ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすと **[DELAY]** ツマミの右回りにディレイタイムが短くなります。また下方向にまわすと **[DELAY]** ツマミの左回りにディレイタイムが長くなります。



操作方法

Contest Memory Keyer

TEXT メモリーの書き込み

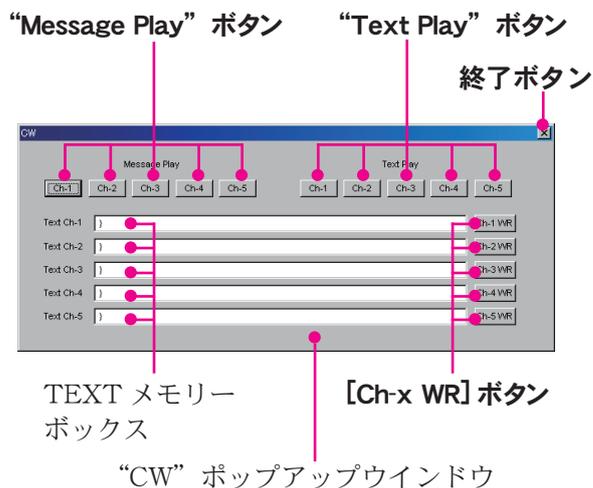
1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックするとポップアップウィンドウが表示され、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、「CW」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. TEXT メモリー (Ch-1 ~ Ch-5) の書き込みを行うことができます。
例えば TEXT Ch-1 に書き込む場合は、TEXT Ch-1 のメモリーボックスにパソコンのキーボードからメッセージを入力します (半角大文字, 最大 50 文字)。
3. **[CH-1 WR]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックして保存します。

アドバイス

MESSAGE メモリーは PCC-5000 からメモリーすることはできません。あらかじめ FTDX5000 からメモリーしておく、**“Message Play”** ボタンを押してメモリー内容の確認と CW の送出手をすることができます。



“CW” を選択



“Message Play” ボタン

“Text Play” ボタン

終了ボタン

TEXT メモリー
ボックス

[Ch-x WR] ボタン

“CW” ポップアップウィンドウ

TEXT メモリーの内容を確認

1. **[MON]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックしモニターを“ON”にします。
2. **[BK-IN]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックしブレイクイン機能を“OFF”にします。
3. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックするとポップアップウィンドウが表示され、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、「CW」のポップアップウィンドウが表示されます。
4. Text Play ボタンからメモリーした **[Ch-1]** ボタン ~ **[Ch-5]** ボタンを押すと、メモリーした CW の確認をすることができます。

TEXT メモリーの CW 符号を送出

1. **[BK-IN]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックしブレイクイン機能を“ON”にします。
2. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックするとポップアップウィンドウが表示され、次に「CW」をマウスの左ボタンでクリックすると、「CW」のポップアップウィンドウが表示されます。
3. Text Play ボタンからメモリーした **[Ch-1]** ボタン ~ **[Ch-5]** ボタンを押すと、メモリーした CW を送出手をすることができます。

ポップアップ画面 (CW) の終了

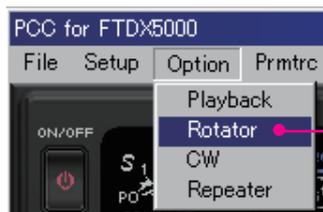
終了するには 2 種類の方法があります。

- “終了ボタン” にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
- パソコンの **[ESC]** キーを押します。

操作方法

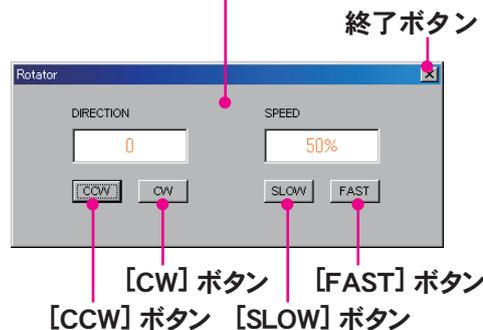
Rotator のコントロール

1. メニューバーの「Option」をマウスの左ボタンでクリックするとポップアップウィンドウが表示され、次に「Rotator」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Rotator」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. 反時計方向（左）にまわしたいときは【CCW】ボタンを、また時計方向（右）にまわしたいときは【CW】ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。DIRECTION のウィンドウには角度（単位は度）が表示されます。
3. 回転速度を変更したい場合、低速に回転するには【SLOW】ボタンを、また高速に回転するには【FAST】ボタンをマウスの左ボタンでクリックします。SPEED のウィンドウには回転速度（単位はパーセント）が表示されます。
4. 終了する場合は、【終了】ボタンまたはパソコンの【ESC】キーを押してポップアップウィンドウを閉じます。



“Rotator” を選択

“Rotator” ポップアップウィンドウ



終了ボタン

【CW】ボタン 【FAST】ボタン

【CCW】ボタン 【SLOW】ボタン

QMB メモリー

- 【STO】ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると Main VFO-A の周波数が QMB にメモリーされます。
- 【RCL】ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると QMB にメモリーされた周波数を呼び出します。



【STO】ボタン

【RCL】ボタン

操作方法

各種ボタンとスイッチの操作

[METER] ツマミ

- [METER] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするたびに左回りに切り替わります。また、マウスの右ボタンをクリックするたびに右回りに切り替わります。
- [METER] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させてキーイング速度を調整することができます。ホイールを上方向にまわすと [METER] ツマミの右回りに切り替わります。また下方向にまわすと [METER] ツマミの左回りに切り替わります。



[METER] ツマミ

[MIC] ツマミ

[MIC] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の MIC 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

- [MIC] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに MIC レベルが下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに MIC レベルが上がります。
- [MIC] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて MIC レベルを調整します。ホイールを上方向にまわすと [MIC] ツマミの右回りに MIC レベルが上がります。また下方向にまわすと [MIC] ツマミの左回りに MIC レベルが下がります。

[MIC] ツマミ



[RF PWR] ツマミ

[RF PWR] ツマミをマウスの左ボタンでクリックします（パネル部分の RF PWR 文字が白色から黄色に変わります）。

設定は 2 種類の方法があります（下記参照）。

- [RF PWR] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしたままにすると左回りに送信出力が下がります。また、マウスの右ボタンをクリックしたままにすると右回りに送信出力が上がります。
- [RF PWR] ツマミの上にマウスカーソルを移動し、マウスのホイールを回転させて送信出力を調整します。ホイールを上方向にまわすと [RF PWR] ツマミの右回りに送信出力が上がります。また下方向にまわすと [RF PWR] ツマミの左回りに送信出力が下がります。



[RF PWR] ツマミ

操作方法

各種ボタンとスイッチの操作 (つづき)

[DIM] ボタン

[DIM] ボタンの上にマウスカursorを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとFTDX5000のアナログメーターと周波数ディスプレイの明るさ(照度)を同時に切り替えることができます。ボタンをクリックすると暗くなり、もう一度押すと元の明るさに戻ります。



[MOX] ボタン

[MOX] ボタンの上にマウスカursorを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると送信状態になります。もう一度押すと受信状態に戻ります。

[SPOT] ボタン

CWを受信時に[SPOT]ボタンの上にマウスカursorを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると相手の信号に正確にゼロイン(同調)することができる、トーン信号を発します。もう一度押すとトーン信号はOFFになります。



[A] ボタン

以下のボタンはVFO-A/VFO-Bと共通機能のボタンです。[A]ボタンが赤色に点灯しているときに、下記のボタンを選択するとVFO-Aの機能として動作します。

- [RX ANT] ボタン
- [ANT 1-4] ボタン
- [ATT] ボタン
- [IPO] ボタン
- [R.FLT] ボタン
- [MODE] ボタン
- [BAND] ボタン
- [NAR] ボタン
- [AGC] ボタン
- [NB] ボタン
- [UP] ボタン
- [DOWN] ボタン



[B] Button

以下のボタンはVFO-A/VFO-Bと共通機能のボタンです。[B]ボタンが橙色に点灯しているときに、下記のボタンを選択するとVFO-Bの機能として動作します。

- [RX ANT] ボタン
- [ANT 1-4] ボタン
- [ATT] ボタン
- [IPO] ボタン
- [R.FLT] ボタン
- [MODE] ボタン
- [BAND] ボタン
- [NAR] ボタン
- [AGC] ボタン
- [NB] ボタン
- [UP] ボタン
- [DOWN] ボタン

操作方法

各種ボタンとスイッチの操作 (つづき)

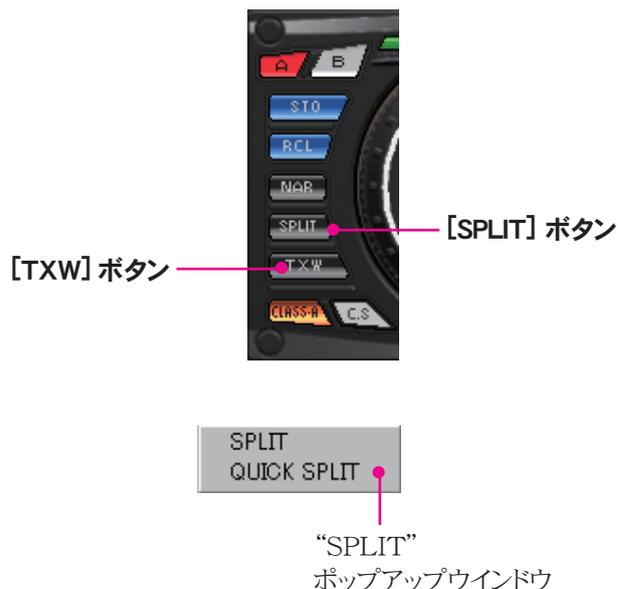
[SPLIT] ボタン

[SPLIT] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると“SPLIT”のポップアップウィンドウが開き、スプリットを設定することができます。

SPLIT: 押すたびにスプリットが交互にON/OFFします。

QUICK SPLIT: クイックスプリット機能が動作します。

(自動的に Sub VFO-B の周波数が、Main VFO-A の周波数より 5kHz 高い周波数に設定されますので、Main VFO-A で受信、Sub VFO-B で送信することができます。)



[TXW] ボタン

[TXW] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると [SPLIT] ボタンをクリックしてスプリット運用を行っているときに [TXW] ボタンを押すと、押している間だけ、送信周波数を受信することができます。

VFO-A [RX] ボタン

VFO-A[RX] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして VFO-A[RX] ボタンが点滅すると、受信音が一時的に“OFF”にする“MUTE”機能になります。もう一度押すと、VFO-A[RX] ボタンは点灯に戻り、受信音を聴くことができます。

VFO-A [TX] ボタン

VFO-A[TX] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックしてインジケータが赤色に点灯しているときには、VFO-A で設定した周波数・モード（電波型式）で送信することができます。もう一度押すと、VFO-B[TX] ボタンが点灯して VFO-B で設定した周波数・モード（電波型式）で送信することができます。

VFO-A [RX] ボタン

VFO-A [TX] ボタン



VFO-B [RX] ボタン

VFO-B[RX] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして VFO-B[RX] ボタンが緑色に点灯しているときには、VFO-B で設定した周波数・モード（電波型式）で受信することができます。

もう一度押すと、VFO-B[RX] ボタンが消灯して VFO-B の受信は OFF になります。

VFO-B [TX] ボタン

VFO-B[TX] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックして VFO-B[TX] ボタンが赤色に点灯しているときには、VFO-B で設定した周波数・モード（電波型式）で送信することができます。もう一度押すと、VFO-A[TX] ボタンが点灯して VFO-A で設定した周波数・モード（電波型式）で送信することができます。

VFO-B [RX] ボタン

VFO-B [TX] ボタン



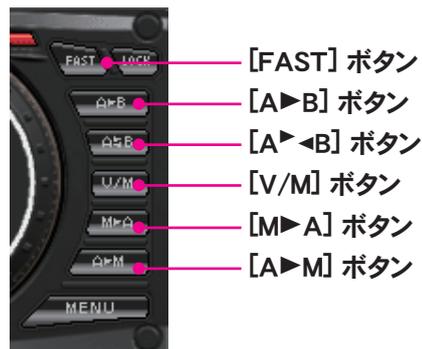
操作方法

各種ボタンとスイッチの操作 (つづき)

[FAST] ボタン

[FAST] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすたびに、メインダイアルの周波数変化量を切り替えることができます。FASTは周波数変化量が10倍になります。FASTに設定されると周波数表示部にFASTのアイコンが表示されます。

7ドバイス メニューモードの143 DIAL STEPを1Hzまたは5Hzに設定した場合は、100Hzになります。



[A▶B] ボタン

[A▶B] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、Main VFO-Aで設定した周波数などのデータをSub VFO-Bにコピーすることができます。

[A▶◀B] ボタン

[A▶◀B] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、Main VFO-Aで設定した周波数などのデータとSub VFO-Bで設定した周波数などのデータを入れ替えることができます。

[V/M] ボタン

[V/M] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすたびに、VFOに設定してあるデータとメモリーチャンネルにメモリーされているデータを交互に呼び出だすことができます。

[M▶A] ボタン

[M▶A] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、メモリーチャンネルに書き込まれている周波数などのデータをMain VFO-Aにコピーすることができます。

[A▶M] ボタン

[A▶M] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、Main VFO-Aで設定した周波数などのデータをメモリーチャンネルに書き込むことができます。

操作方法

マルチファンクションダイヤル (VFO-A の補助機能として使う)

VFO-A のバンドの切り替えと MHz のアップダウン、メモリーチャンネルとメモリーグループの切り替えとして使用することができます。

VFO-B ツマミの外周右側の動作表示 (橙色) が消灯していることを確認してください (VFO-B ツマミの外周右側が橙色に点灯している時は、[A/B] ボタンを押して消灯してください)。

[CLAR/GRP] ボタン

[GRP] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンを1秒以上クリック (ボタン内橙色点灯) します。次に [CLAR/VFO-B] ツマミの上にマウスカーソルを移動してマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、メモリーグループ (GRP) を選択することができます。



[BAND/MCH] ボタン

[BAND/MCH] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリック (ボタン内赤色点灯) します。次に [CLAR/VFO-B] ツマミの上にマウスカーソルを移動してマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、VFO-A の運用バンド (アマチュアバンド) を選択することができます。

[BAND/MCH] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンを1秒以上クリック (ボタン内橙色点灯) します。次に [CLAR/VFO-B] ツマミの上にマウスカーソルを移動してマウスの左ボタンをクリックしながらツマミをまわすと、メモリーチャンネル (MCH) を選択することができます。

操作方法

マルチファンクションダイヤル (VFO-B の補助機能として使う)

[A/B] ボタンの上にマウスカーソルを移動して、マウスの左ボタンをクリックすると、ボタン内が橙色点灯し、VFO-B の補助機能として動作していることを示します。

[A/B] ボタン

[CLAR/VFO-B] ツマミの動作を、VFO-A の補助機能として使うのか、VFO-B の補助機能として使うのかを選択するスイッチです。

[A/B] スイッチを押すとスイッチの LED が橙色に点灯します。[CLAR/VFO-B] ツマミが VFO-B の補助機能になっていることを示します。

もう一度 [A/B] ボタンを押すと、[A/B] ボタン内のインジケータが消灯し、[CLAR/VFO-B] ツマミは VFO-A の補助機能として動作します。

[RX CLAR/FAST] ボタン

[A/B] スイッチが橙色に点灯しているときに [RX CLAR/FAST] ボタンをクリックすると、[CLAR/VFO-B] ツマミで VFO-B の運用周波数を変えるときの周波数変化量が 10 倍になります。

[TX CLAR/LOCK] ボタン

[A/B] スイッチが橙色に点灯しているときに [TX CLAR/LOCK] ボタンをクリックすると、[CLAR/VFO-B] ツマミを “LOCK” することができます。

[RX CLAR/FAST] ボタン



[TX CLAR/LOCK] ボタン

[A/B] ボタン

メニューモード

メニューモードの設定

1. [MENU] ボタンの上にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンを押して“MENU”画面を開きます。
2. マウスのホイールを回転しメニューを選択し、マウスの左ボタンをダブルクリックすると“MENU LIST SETTING”のポップアップウィンドウが開きます。
3. 変更したい設定値にマウスカーソルを移動し、[OK] ボタンをクリックしてポップアップウィンドウを閉じます。



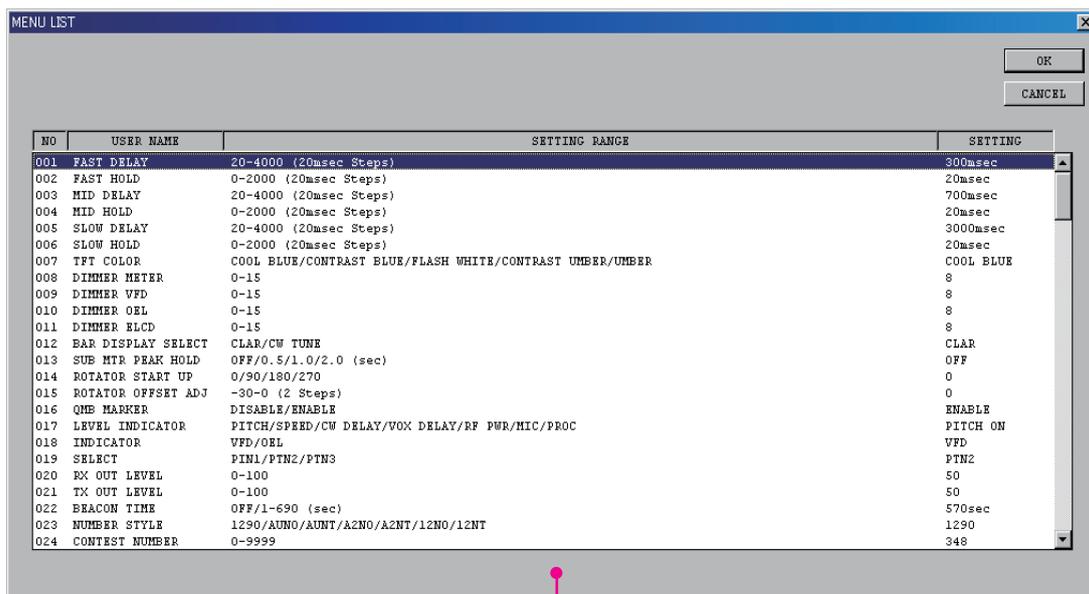
[MENU] ボタン

[CANCEL] ボタンをクリックすると、設定値を変更せずに“MENU LIST SETTING”画面を閉じます。

赤文字で表示されている設定値は、現在の設定値です。

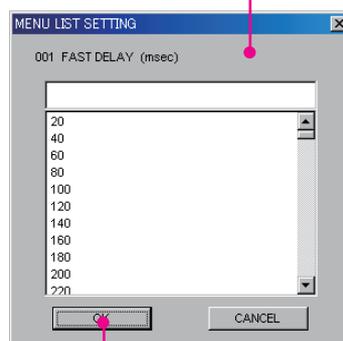
4. “MENU LIST” の [OK] ボタンをクリックすると内容を保存し、“MENU LIST”画面を閉じます。

[CANCEL] ボタンをクリックすると、メニュー内容を変更せずに“MENU LIST”画面を閉じます。



“MENU LIST” ポップアップウィンドウ

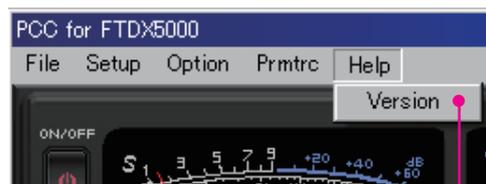
“MENU LIST SETTING” ポップアップウィンドウ



[OK] ボタン

バージョンの確認

1. メニューバーの「Help」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Version」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Version information of PCC for FTDX5000」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. バージョンを確認後、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ポップアップウィンドウを閉じられます。



“Version”
をクリックする

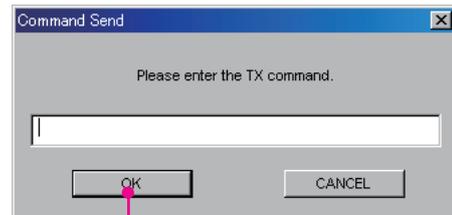
CAT モードによる設定

CAT コマンドの詳細は、当社ホームページのサポートページより“FTDX5000 シリーズ CAT オペレーションマニュアル”をダウンロードして参照してください。

1. メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Command Send」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Command Send」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. ポップアップウィンドウのボックスにパソコンのキーボードでCATコマンドを入力し（例えば **A▶B** の場合は、**A B** ; と入力します）、**[OK]** ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、コマンドが設定されポップアップウィンドウを閉じられます。
[CANCEL] ボタンをクリックするとコマンドは入力されずに終了して、ポップアップ画面は消えます。



“Command Send”
をクリックする



[OK] をクリックする

ファンクションキーの使い方

上記の方法で直接 CAT コマンドを入力する方法もありますが、あらかじめパソコンのファンクションキーに CAT Command を登録しておき、登録した各ファンクションキーを押すだけで CAT Command を送出することができます。“Keyboard shortcut editor”を使用することができます。

“Keyboard shortcut editor”のソフトは PCC-5000 に付属されていますので、使用方法は、次ページの「Keyboard shortcut editor の使い方」を参照してください。

アドバイス

Keyboard shortcut editor は CAT Command をパソコンのファンクションキーに登録するソフトです。PCC-5000 のソフトと同時に起動することはできません。ソフトを同時に起動する場合は、“COM”を違う設定にしてください。

Keyboard shortcut editor

Keyboard shortcut editor の使い方

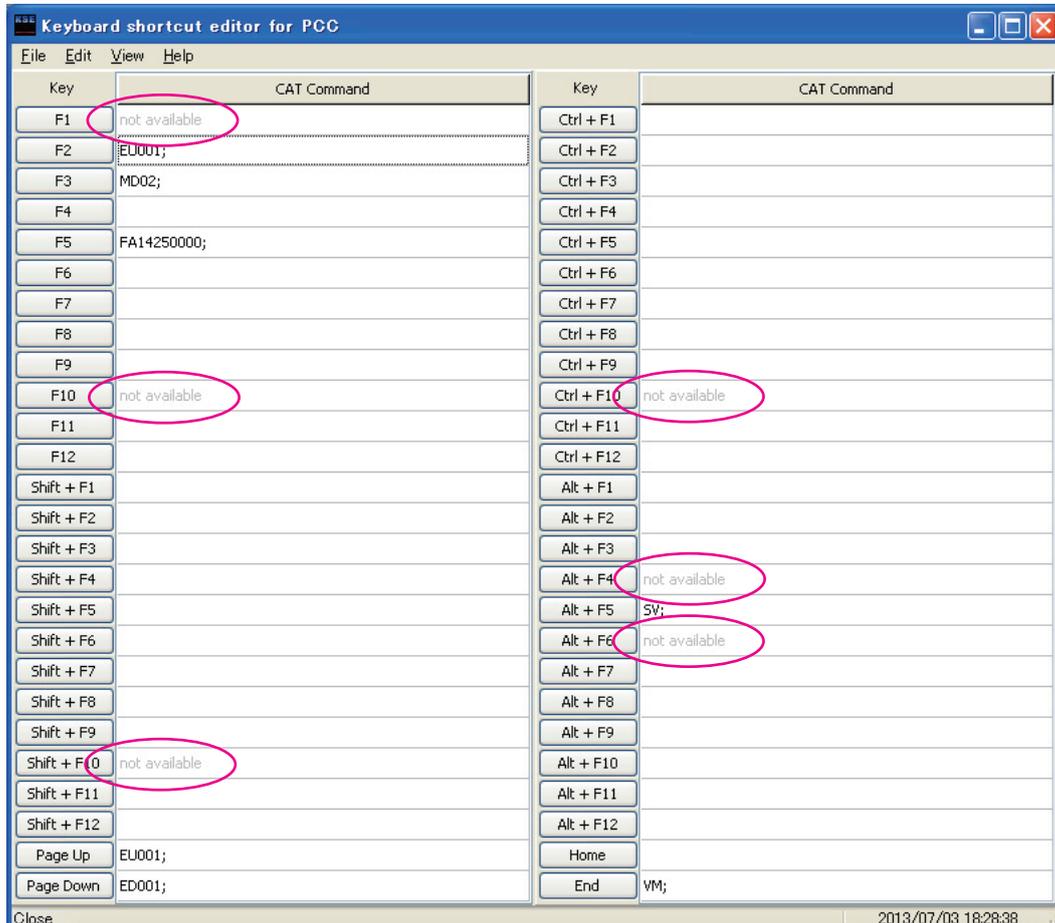
あらかじめファンクションキーに CAT コマンドを登録しておく、PCC-5000 を操作中にパソコンのファンクションキーを押すことにより FTDX5000 を操作することができます。

Keyboard shortcut editor の起動

PCC-5000 に付属の“KSE4PCC1. exe”をダブルクリックすると、下記の Keyboard shortcut editor 画面が開きます。

アドバイス

Keyboard shortcut editor を起動する前に PCC-5000 を終了してください。同時に立ち上げたいときは“COM”の設定を変えてください。



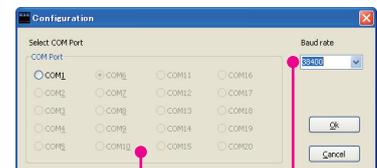
○印の部分はあらかじめ Windows の OS でファンクションキーを使用しているため、○印の以外にコマンドを設定してください。

“COM Port”, “Baud rate” の設定

1. メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Configure」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Configuration」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. COM Port をマウスの左ボタンでクリックします。
3. Baud rate の数字を選択し [OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、Baud rate が設定されポップアップウィンドウが閉じられます。デフォルトは 4800bps に設定してありますが、それ以外にマウスかキーボードの [↑], [↓] で 9600bps/19200bps/38400bps に設定することができます。通常は 4800bps に設定してください。
[CANCEL] ボタンをクリックすると COM は変更されずに終了してポップアップ画面は消えます。
4. Keyboard shortcut editor 画面を再起動してください。



[Configure] をクリックする



“COM Port” の設定

“baud rate” の設定

アドバイス

4800bps 以外の Baud rate へ変更する場合は、FTDX5000 のメニューモード「CAT BPS (CAT RATE)」の設定も同じ Baud rate に変更してください。

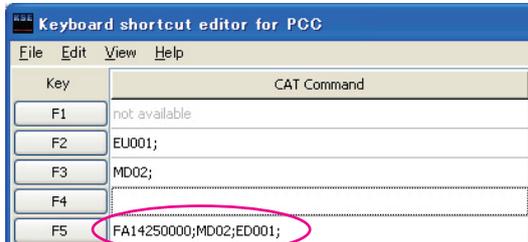
Keyboard shortcut editor

Keyboard shortcut editor の使い方 (つづき)

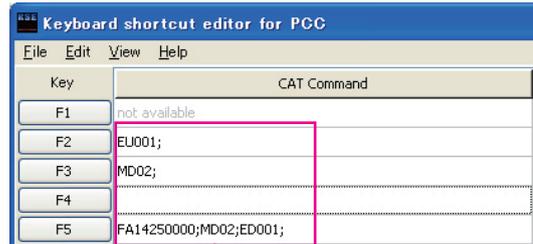
各ファンクションに CAT Command を設定する
登録したいファンクションに CAT コマンドを入力します。

アドバイス

コマンドを連結して入力も可能です。



コマンドを連結可能



CAT コマンドを入力します

CAT Command に Tag を入力して表示する

◎ **Tag を入力して CAT Command と表示する**

CAT コマンドにタグを付けることができ、タグと CAT コマンドを表示します。

1. メニューバーの「View」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Both」をマウスの左ボタンでクリックして表示します。
2. タグを付けたい CAT コマンドを選択します。
3. CAT コマンドの左側のセルをマウスの左ボタンでダブルクリックしてキーボードでタグを入力します。

全角 / 半角 16 文字入力可能です。

◎ **Tag を入力して Tag のみ表示する**

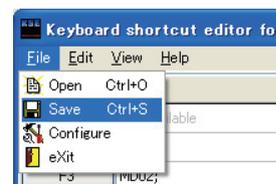
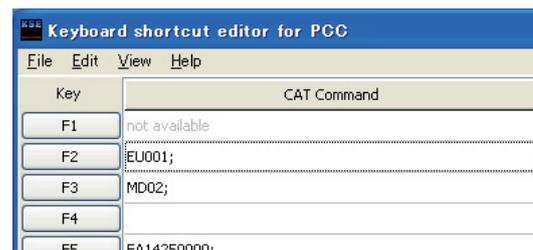
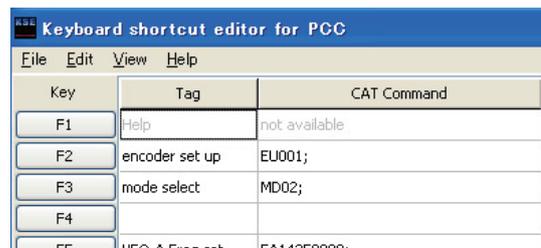
CAT コマンドにタグを付けることができ、タグのみ表示します。

1. メニューバーの「View」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Tag」をマウスの左ボタンでクリックして表示します。
2. タグを付けたい CAT コマンドを選択します。
3. セルをマウスの左ボタンでダブルクリックしてキーボードでタグを入力します。

全角 / 半角 16 文字入力可能です。

ファンクションに設定した CAT Command を保存する

メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Save」をマウスの左ボタンでクリックして保存します。



Keyboard shortcut editor

Keyboard shortcut editor の使い方 (つづき)

ファンクションをクリックしてCAT Commandを送出する

登録したファンクションボタンをクリックするか、パソコンのファンクションキーを押すと、CAT コマンドを送出することができます。

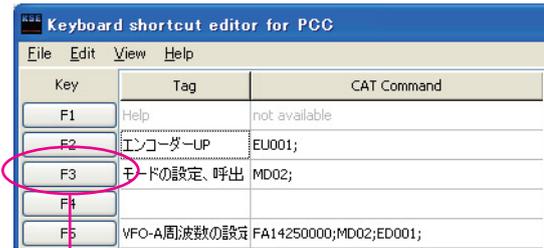
アドバイス 画面左下に“Open”が表示されているときは送出できますが、“Close”が表示されているときは送出できません。Baud rateの確認をしてください。



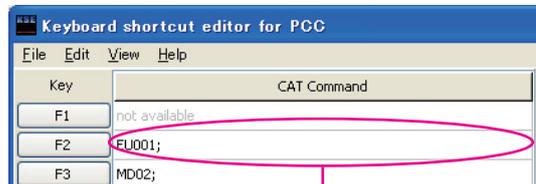
“Open”が表示されているときは送出可能,
“Close”が表示されているときは送出不可

コマンドをコピーして貼り付ける

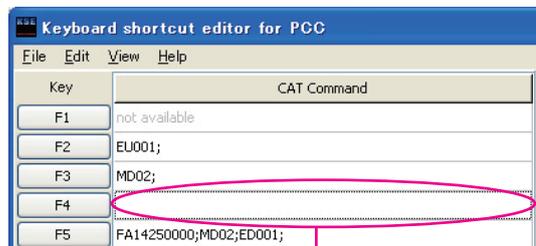
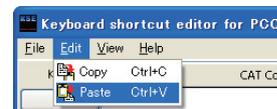
1. コピーしたいコマンドをマウスの左ボタンでクリックし選択します。
2. メニューバーの「Edit」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Copy」をマウスの左ボタンでクリックしてコピーします。
3. メニューバーの「Edit」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Paste」をマウスの左ボタンでクリックして貼り付けます。



例) F3のCATコマンドを送出する場合
画面の[F3]ボタンをクリックまたは、
パソコンのキーボードのF3を押す



マウスの左ボタンでクリック
して選択する

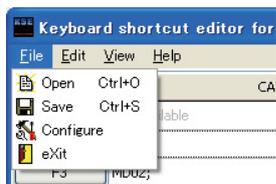


貼り付けたいファンクションをマウス
の左ボタンでクリックして指定する



保存したデータを呼び出す

メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Open」をマウスの左ボタンでクリックすると以前保存した画面が表示されます。



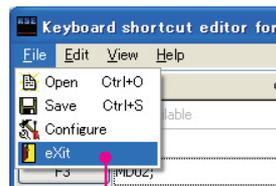
Keyboard shortcut editor

Keyboard shortcut editor の使い方 (つづき)

Keyboard shortcut editor の終了

Keyboard shortcut editor 画面を閉じるには、下記の 2 種類の方法で行うことができます。

- Keyboard shortcut editor 画面の上の“終了ボタン”にマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
- メニューバーの「File」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Exit」をマウスの左ボタンでクリックします。



[eXit] をクリックする



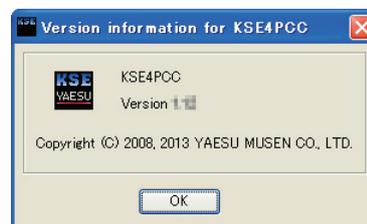
終了ボタン

バージョンの確認

1. メニューバーの「Help」をマウスの左ボタンでクリックし、次に「Version」をマウスの左ボタンでクリックすると、「Version information of PCC for KSE4PCC1」のポップアップウィンドウが表示されます。
2. バージョンを確認後、[OK] ボタンをマウスの左ボタンでクリックすると、ポップアップウィンドウを閉じられます。



[Version] を
クリックする



YAESU
The radio

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

©2013 八重洲無線株式会社

無断転載・複写を禁ず